



Inversion_Reflection4 #0_1

油彩、キャンバス、麻紐、アルミフレーム

100 x 100 cm

2020

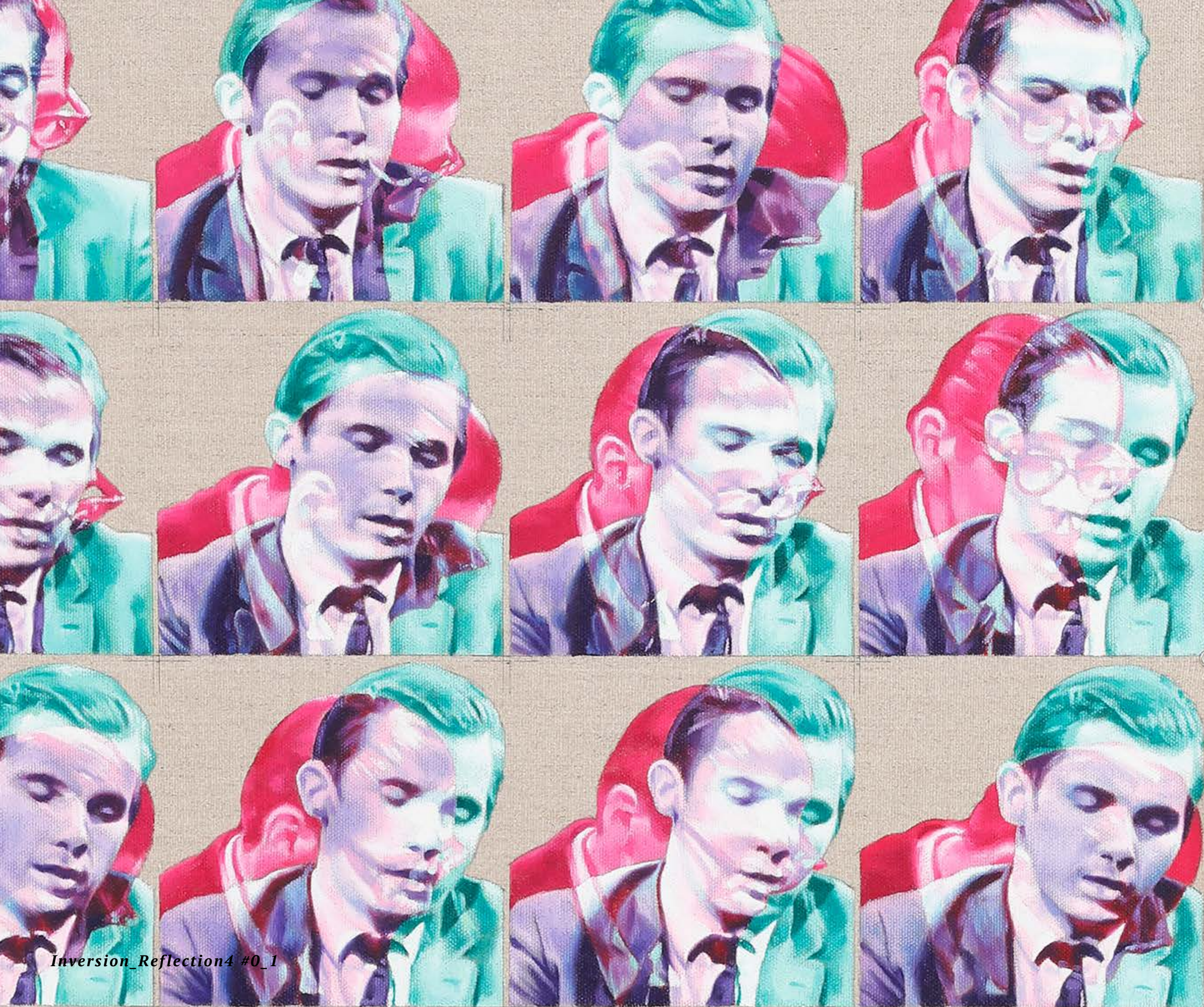


Inversion_Reflection4 #0_2

油彩、キャンバス、麻紐、アルミフレーム

100 x 100 cm

2020



Inversion_Reflection4 #0_1



Inversion_Reflection4 #33

油彩、キャンバス、麻紐、アルミフレーム

50 x 50 cm

2020



Inversion_Reflection4 #40

油彩、キャンバス、麻紐、アルミフレーム

50 x 50 cm

2020



Inversion_Reflection4 #34

油彩、キャンバス、麻紐、アルミフレーム
50 x 50 cm
2020
ACG ID #9193



Inversion_Reflection4 #36

油彩、キャンバス、麻紐、アルミフレーム
50 x 50 cm
2020
ACG ID #9195



Inversion_Reflection4 #35

油彩、キャンバス、麻紐、アルミフレーム
50 x 50 cm
2020
ACG ID #9194



Inversion_Reflection4 #37

油彩、キャンバス、麻紐、アルミフレーム
50 x 50 cm
2020
ACG ID #9196



Inversion_Reflection4 #38

油彩、キャンバス、麻紐、アルミフレーム

50 x 50 cm

2020

ACG ID #9197



Inversion_Reflection4 #39

油彩、キャンバス、麻紐、アルミフレーム

50 x 50 cm

2020

ACG ID #9198

限定公開 《 Inversion_Reflection4 》 アニメーション動画

クリックすると、再生画面（YouTube）へ移動します。

Inversion_Reflection シリーズについて

新平誠洙 インタビュー

▷ タイトルの「Inversion_Reflection」について、教えてください。

これまでに作ってきた2つのシリーズ「Inversion」（反転）と「Reflection」（反射）の構造を融合させて、2019年から始めた新しいシリーズです。この作品は、絵画であるとともに、分割された映像の静止画でもあります。それぞれの絵をコマ送りにすると、再び動画として再生することができます。

▷ なぜ、フレーム枠にキャンバスが宙吊りにされているのですか？

木製の枠に麻紐でキャンバスを宙吊りにする様式は、1600年代中頃にオランダの限られた地域で用いられたとされる下地塗り用の仮張技法です。オランダのレンブラントハイス美術館で偶然見つけて印象に残っており、帰国後にも実際にそのように使われていたことを美術史家の方にもお話を伺って調べました。絵画であり動画のコマでもあるという曖昧な状態を作る制作アイディアと結合させて、「Inversion_Reflection」シリーズではこの様式を取り入れることにしました。

また、#4では枠にアルミ製のフレームを採用しています。木製で作られていた参照元とは離れることになりましたが、このアルミフレームは額縁としての鑑賞用ではなく骨組用のものであり、作品の構造に「途中段階」を組み込むという考えに基づいています。描画についても、今回は白黒やフルカラーのような完全状態ではなく、それぞれのモチーフを淡いピンクとグリーンの単色に色調を変えて描いています。

▷ 描かれている人物は、ジャズピアニストのビル・エヴァンスとグレン・グールドの2人ですか？

はい、ビル・エヴァンスとグレン・グールドは2人とも、父のレコードでよく聴いていた中でも特に気になる存在でした。エヴァンスはマイルス・デイビスのジャズバンドにとって異端であった白人とクラシックの文脈を持ち込み、グールドはクラシック音楽をあまりに独特すぎる音と演奏スタイルで再解釈しました。今でこそ巨匠として広く受け入れられている2人ですが、その登場は当時の人々にとって、狂気のノイズだったのではないかと思います。本格的に絵画制作に取り組み始めた頃から、空間の歪みや分裂といったノイズ現象に着目していたこともあり、彼らの演奏シーンを作品モチーフとして描くことはライフワークのようになっていくように思います。

作品では、2人それぞれの演奏シーンの動画を重ねて描いています。ただし、タイムラインをバラバラに組み合わせて描いているので、片方を正しい順で再生すると、もう片方は映像ノイズのように乱れてしまいます。見る人＝再生者の選択次第で、シグナルとノイズが反転し続ける作品です。実際に描いた絵をつなげた参考アニメーションもあるので、ぜひご覧になってみてください。

限定公開 《Inversion_Reflection4》アニメーション動画

クリックすると、再生画面（YouTube）へ移動します。

参考作品

《Inversion_Reflection2》シリーズ



左：《Inversion_Reflection2 #0》2019 | 116.7 x 116.7 cm | 油彩、キャンバス、麻布、木枠

右：《Inversion_Reflection2 #1, #3, #12, #16, #19》2019 | 各 45.5 x 45.5 cm | 油彩、キャンバス、麻布、木枠

※「ART OSAKA 2019」にて初発表（完売につき、オーダー制作のご依頼も多数いただき、現在も受付中です）。

Inversion(2016-)、Reflection(2015-) は、それぞれ制作継続中の新平作品を代表するシリーズです。

Inversion シリーズ

インターネット上に公開されている“走る牛”の映像をコマ撮りに分解して描き、時間の経過と異なる空間の重なりをテーマとするシリーズ。

一画面上に牛をランダムに描き・写真に撮るを繰り返し、蓄積した写真をつなげることで、壁画のような絵画と映像を同時に現出させるプロトタイプ作品《Inversion3》から制作をスタートさせる。《Inversion0》《Inversion1》では、一画面の中にコマを連続・集積させた作品と、一枚ずつコマを独立させて複数点で構成する作品とがある。支持体には3mmのアルミ板を採用し、光の反射と周囲環境の映り込み効果をねらう。発光する金属板（PCやスマホなどの液晶モニター）にうつし出される映像の情報量は、時に現実に対面して同じものを見るよりも、我々の知覚体験としてリアリティを上回る。アルミ板にうつりこむ現実空間（三次元）は焦点が定まらず、画面上では鮮明に描かれた牛（二次元）の方が優位に存在する。タイトルのInversionは、この次元優位性の「反転」を試みることを示している。

松本の炎で洞窟に描いた牛を動画的に見ていた古代の人々への関心も根底にあり、現代人である自身が興味を抱いた“出産する牛”や“走る牛”の動画をモチーフに彼らの描画を迫体験している。



《Inversion1 #1》2018

Reflection シリーズ

男性と女性、肉食と草食動物、人工と自然など、対極的な2つのイメージを、窓に反射し映り込んだ風景のように重ね合わせて描いたシリーズ。それぞれのイメージは輪郭を曖昧に、互いに侵食しあい融合し、一つの世界として形成されている。

モノトーンに描き、さらにその上にはビビットな蛍光色のラインを引くことで、絵画空間と実空間との差異を強調させている。蛍光色のラインは、空間境界の窓のような意図に加え、時間軸や空間軸を表す展開にもつながっている。画面上のノイズだが、不思議とそのラインをキャンセルして見ることができ、複雑な光学現象の知覚処理能力をもつ人間の目に対し一枚の絵として成立し得る絵画領域の探求実践とも捉えることができる。



《Reflection #2》2016

ARTCOURT Gallery